

# クラスター研究報告 医療会計ファイナンス研究

＜研究メンバー＞吉田和生、三澤哲也、  
奥田真也、小川淳平、高橋二郎

病院の経営状態（収益性）は非常に悪く、危機的な状況となっている。経営を改善するには様々な側面から分析が必要であるが、わが国では本格的な分析はほとんど行われていないのが現状となっている。

→本研究の目的は、病院の収益性の要因を明らかにすることである。

# 今年度の活動

- 財務分析懇談会

＜第6回＞H27.6.5(金)高橋二郎

「先行研究の極々簡単なレビュー」

＜第7回＞H28.3.3(木)小川淳平

「名市大の財務状況と将来の収益構造の検討」

- 第1回名市大医療経営セミナー

H27.9.29(火)吉田和生

「国公立大学病院の収益性の要因分析」

- ・特別研究奨励費セミナー

H27.11.27(金)黒木淳(横浜市立大学)

「病院・介護施設のKPIと管理会計システムー法人形態の相違による影響の分析ー」

H28.3.11(金)三津原庸介(日本調剤)

「新時代の薬局経営と薬剤師の役割」

H28.3.24(木)泉田信行(社会保障・人口問題研究所)

「レセプトデータを用いた乳幼児医療費助成制度の帰結の分析」

# 病院の収益性に関する先行研究

- コスト構造の分析

下村・久保(2011)・・・国立病院の黒字G(57)と赤字G(44)では様々な費用の割合が異なる。

- 黒字要因の分析

田中(2014)・・・国立病院(143)を対象に黒字要因について分析している(人件費と材料費がプラス要因)。

- 効率性

中西(2009)・・・DEA分析を行い、公立病院(280)の効率性について分析している。

- 収益性の要因分析

Gapenski et al.(1993)・・・フロリダ州にある一般急性期病院(169)の収益性について分析している。

荒井その他(2011)、荒井(2012)、荒井(2015)・・・二律背反性(病院の質と採算性)に関する分析であり、指標によって結果が異なる。

井上(2014)・・・九州にある医師会病院(35)の医業収支比率(医業収益／医業費用)について分析している。

安酸その他(2011)・・・国立病院(約150)を対象に、収益減少時における損益変動について分析している。

# 一般企業の収益性に関する先行研究

亀田・高川(2003)・・・1990年代の日本は資本生産性と資本分配率の両方が低下し、前者については資本装備率が高いだけでなくTFP(全要素生産性)が低い。

権その他(2008)・・・TFPの上昇は内部効果(リストラや研究開発投資)によるものであった。

元田・趙(2002)・・・企業の収益性について損益構造と投資効率の視点から分析している。

長島(2000)・・・TFPと設備使用年数との関係进行分析し、90年代のTFPの減少は使用年数の増加による。

宮島その他(2002)・・・90年代の後半以降、外国人株主の影響が低下する一方、負債の規律や取締役会の規模の影響が強くなった。

大和・市川(2013)・・・サービス産業の生産性を分析し、2000年代は内部効果の影響度が高かった。